第４８回自啓教育研究発表会

学習指導案

研究主題

自ら学ぶ子供の育成
ー「書くこと」と「聴くこと」を基盤としてー









令和８年１１月２５日（水）

南砺市立福光中部小学校

目　　次

Ⅰ　研究発表会要項……1

Ⅱ　本校教育（自啓教育）の構想……2

Ⅲ　本年度の研究計画……3

Ⅳ　学習指導案

第２学年　　生活科　　……5

第６学年　　社会科　　……１１

Ⅴ　講演メモ……１７

Ⅰ　研究発表会要項

研究主題

自ら学ぶ子供の育成
―「書くこと」と「聴くこと」を基盤として―

1　講師・指導助言者

講　　師　　早稲田大学　教育・総合科学学術院
　　教育学部教育学科　大学院教育学研究科　　教授　藤井　千春 先生
指導助言者　　南砺市立城端小学校　　校長　高田　篤志 先生
指導助言者　　南砺市立福野小学校　　校長　吉尾　　徹 先生

2　日　程

12:45 12:55 13:00　13:15 13:30　　14:15 14:30　　15:25 15:40　　16:40

受付	移動	聴き合いタイム（低・中・高）	移動	【公開授業】（２年・６年）	休憩	【部会別協議会】（２年・６年）	移動	【講　演】

3　聴き合いタイム(13:00～13:15)

	授業者	学年
低学年	池田　真緒	１年
中学年	石塚　千里	４年
高学年	犀川　雄創	５年

4　公開授業（13:30～14:15　２学年ともチーム担任制による実施）

学年･組	教科等	単元名	授業者	授業会場
２年	生活科	ふくみつのよさミッケ！	金代　純一 吉田 虎之助	２年フロア ２年教室
６年	社会科	太平洋戦争と絵日記を描いた子供の思い	中村　優太 田中　　慶	６年フロア ６年教室

5　部会別協議会（14:30～15:25）

	指導助言者	協議会場
２年	南砺市立城端小学校　　校長　高田　篤志　先生	２年フロア
６年	南砺市立福野小学校　　校長　吉尾　　徹　先生	６年フロア

6　講演（15:40～16:40）　体育館

・講演　　早稲田大学　教育・総合科学学術院
　　教育学部教育学科　大学院教育学研究科　　教授　藤井　千春　先生

Ⅱ　本校教育（自啓教育）の構想

（1）自啓教育の目標

自ら学ぶ力の育成

（2）自啓教育が目指す学習における子供の姿

自らが問題をもち、その解決に向けて粘り強く取り組む子供

※　自己啓発（自啓）教育は、全人教育の精神に立つものであり、その目標とするところは、今日求められている「生きる力」の育成そのものである。
　そして、目標達成のために、学習指導において、教師主導による一斉画一的な指導からの質的転換を図り、学習の主体者である子供が、「自らが学ぶ」学習指導を推進していこうとするものである。

（3）自啓教育が目指す学習における教師の姿

学習は子供の中で成立し、学習を成立させるのは子供である。
つまり、学習の主体者は子供であり、教師は、子供の支援者である。

【３つの理念】

個性化・個別化
一人一人を大切にし、個性の伸長を図る。

労作化
体験学習、作業学習を重視する。

自発化
子供の主体的な発想、意欲、活動を大切にする。

【開かれた学校】

人間の壁を開く

時間の壁を開く

空間の壁を開く

教材の壁を開く

【教師の心構え】

立つな　子供の前面に立って教え込むのではなく、個に応じた指導をせよ！

話すな　子供の学習や活動を確保するため、教師の発言を精選し、的確にせよ！

整えよ　子供は学習計画を、教師は教材や学習資料を整えよ！

Ⅲ　本年度の研究計画

1　研究主題

自ら学ぶ子供の育成
―「書くこと」と「聴くこと」を基盤として ―

2　研究主題設定の理由

本校は創立以来、オープンスペースを生かして主体的に学ぶ力を育成する「自啓教育」を推進しており、「学習の個別化・個性化」「学習の労作化」「学習の自発化」を理念として研究に取り組んできた。昨年度は、「一人学び」と「聴き合い」の往還を軸に、子供が問いをもち主体的に学ぶ授業づくりを進めてきた。特に、一人学びの時間を十分に設け、自ら学ぶための学習環境づくりに励んだ。その結果、思いや願いをもち、自ら問いをもち、課題に向けて意欲的に取り組む姿や、考えを表現しようとする姿が見られた。しかし一方で、

・一人学びの追究状況に、個人差がある
・十分に考えをもてないまま、友達に依存する姿がある
・聴き合いが、紹介や感想の共有にとどまってしまう場面がある

といった課題も明らかになった。その背景には、根拠をもって自分の考えを整理する経験が不足していることや、互いの考えを最後まで聴き合う人間関係づくりが不十分であることが考えられる。
これらの課題から、一人学びの時間や環境を整えるだけでは十分とは言えず、書く力と聴く力を育てるとともに、安心して聴き合える学級風土を整える必要があると考えた。そこで今年度は、「書くこと」と「聴くこと」の基盤を形成することを通して、子供が自分の考えをもち、仲間と関わりながら学びを深めていく姿を育てていきたい。

ここでいう「書くこと」とは、文章の作成を目的とするものではない。自分の考えを整理し、見つめ直すための行為としての「書くこと」である。例えば、思いついたことをメモすることや、キーワードを書き留めること、短い言葉で自分の思いを書くこと等も含まれる。言わば、考えを外に出して整理するための手段である。書くことによって、子供は自分の考えを客観的に見つめ、思考を整理することができる。

また、「聴くこと」とは、単に話を聞くことではなく、相手の考えを素直に受け止め、自分の考えと結び付けながら理解しようとする営みである。友達の考えを最後まで聴くことによって、自分の考えが揺さぶられ、新たな視点に気付いたり、自分の考えを深めたりすることができる。さらに、それを書き表すことによって自分の考えを整理し、学びを深めていくことができる。

このように、「書くこと」によって思考が整理され、「聴くこと」によって考えが広がり、深まるという関係の中で、子供が自ら学び、その学びが進んでいくと考える。なお、書くことはあくまでも目指す姿であり、すべての子供に同じ形で求めるものではない。日記指導を通して書くことへの抵抗感を減らしたり、学級や子供の実態に応じて、話すことや教師による代筆なども含めたりしながら、スモールステップで取り組んでいくことが大切である。

そこで今年度は、これまでの課題を振り返り、以下の２つの重点を設定し、「自ら学ぶ子供の育成」に向け、研究を進める。そして、昨年度に引き続き、自啓教育の基本理念を大切にしながら、時代に即した形へと改善を図る。

3　主題解明の視点及び研究内容（各学年の発達の段階を考慮する。）

重点(1)　根拠をもって考えを書き、振り返る力の育成

一人で考え続けるためには、自分の考えを言語化し、整理し、振り返る力が必要である。そのため、授業の中で、一人で書く時間を確保し、「なぜなら」「だから」など理由を添えて説明する場面を意図的に設定する。また、振り返りを通して自分の考えの変化や学びを言葉にできるよう教師が支援する。

重点(2)　互いの考えを最後まで聴き合える集団づくり

「一人学び」は孤立ではない。互いに考えを表出できる関係性があってこそ成立する。子供一人一人が自分の学びを深めるために、互いの考えを最後まで聴き合う場面の積み重ねを通して、学級で安心して考えを話し、最後まで聴き合える人間関係づくりに努める。

4　研究方法

(1)　研究方法

①　書く力の検証

「なぜなら」「だから」等の理由表現を用いて、自分の考えを書くことができている児童の割合を学期ごとに比較する。また、学期当初と学期末の記述を比較し、理由の明確さや根拠の具体性など、子供の記述内容の変化を見取る。

②　振り返りの質の検証

振り返りにおいて「自分の考えの変化」や「次への課題」が記述されている児童の割合を記録し、学期ごとにサンプルを抽出して記述内容の変化を分析する。また、学期ごとに振り返りの記述をいくつか抽出し、子供の学びの深まりや思考の変化を具体的な記述から分析する。

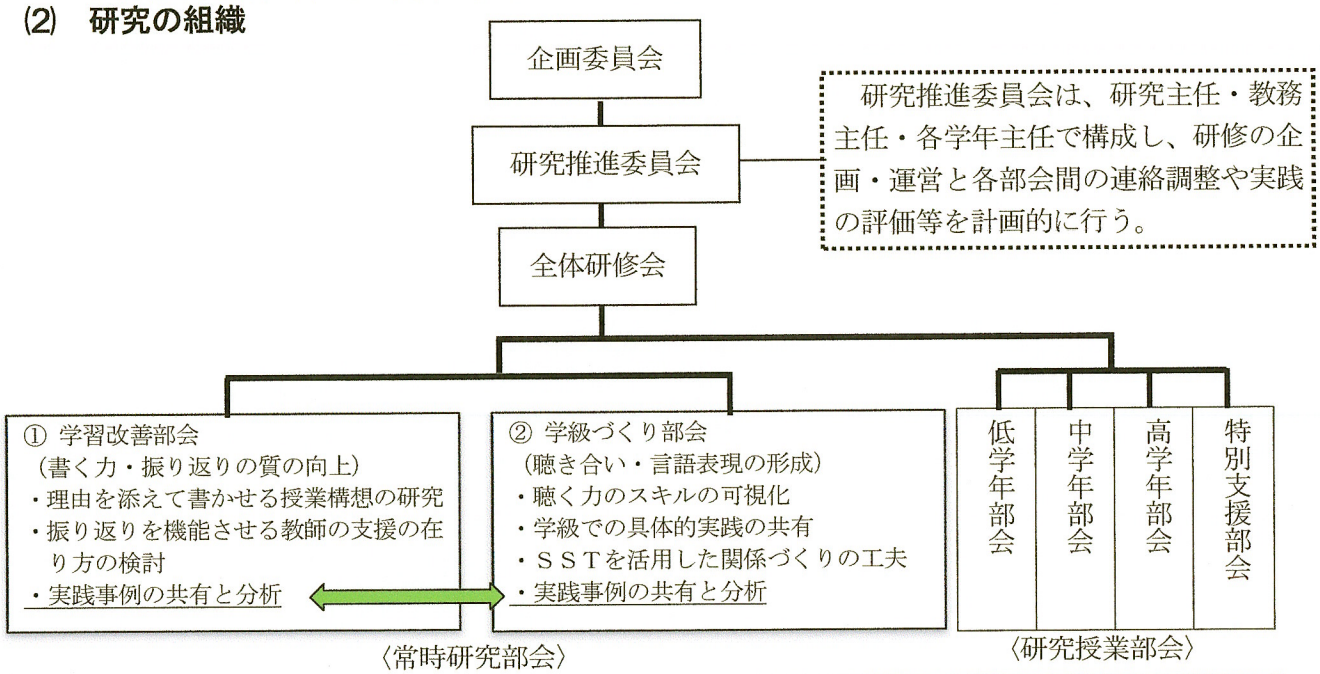
③　聴く力・学級集団における人間関係の検証

聴き合いチェックシートの活用状況を可視化するとともに、QUの「学級満足度」「承認」「被侵害」等の項目の推移を確認する。

④　書く力と人間関係の関連の検証

書く力の育成と、聴き合える人間関係の形成との関連について、子供の振り返りやノートの記述、学習中の子供の姿等をもとに考察する。特に、友達の考えを聴いたことによって自分の考えが変化した様子や、その変化が記述に表れているかに着目し、両者の関係を検討する。

(2)　研究の組織



	学習改善部会	学級づくり部会
低学年部会	池田・吉田・松本	金代・松岡
中学年部会	石塚・谷内	本多・堀内・島田
高学年部会	中村・浅野・新明	犀川・田中
特別支援部会	俵・髙桑・小野	有田・宗本・杉下

(3)　研究の進め方

・方針･･･全体または部会で事前や事後の検討をし、研究を推進する。

４月	研究の方向性を知る	部会の決定、研究体制の共通理解
５～７月	研究の方向性を探る	５月　校内研修会３年 ６月　公開校内研修会４年
８月	研究をまとめる	紀要原稿作成（１学期の授業）
９～１０月	研究を公開する	9/7　学校訪問研修会 全学級授業公開、指定授業１年 10 月　特別支援校内研修会　提案授業
１１月	効果的な方策を見付ける	11/25　自啓教育研究発表会２年、６年
１２～１月	研究をまとめる	紀要原稿作成（１・２学期の授業）
２～３月	次年度の計画を立てる	次年度の研究計画の立案

Ⅳ　学習指導案

下学年部会

第2学年　生活科

単元名　ふくみつのよさミッケ！

上学年部会

第6学年　社会科

単元名　太平洋戦争と絵日記を描いた子供の思い

第２学年　生活科学習指導案

児童数　４７名
指導者　金代　純一
　　吉田　虎之助

１　単元名　ふくみつのよさ ミッケ！

２　単元について

本学年の児童は、日頃から福光地域のお店で家族と買い物をしたり、飲食店に行ったり、地域の行事に参加するなどして地域と関わる機会をもっている。福光の祭りや公共施設、商店等について知っている児童は多く、「楽しい」「好き」といった思いをもっている。一方で、地域の人々がどのような願いをもって活動しているのか、地域のよさが自分たちの生活とどのようにつながっているのかについては十分に理解していない児童も見られる。また、身近な施設や場所を利用していてもその役割や地域を支える人々の工夫について意識することは少ない。そこで、実際に福光の地域を探検したり地域の人と関わったりする活動を通して、福光のよさや地域で暮らす人々の思いに気付き、自分たちが住んでいる地域への愛着や親しみを高められるようにしたい。

第一次「ふくみつのよさミッケ！ ～見つけよう！ふくみつのすてき～」では、子供たちから福光で行きたいところを聞き取るだけでなく、保護者へのアンケートも行って、まち探検の計画を立てる。保護者へのアンケートも含めることで、子供たち自身がまだあまり知らない地域の素晴らしさに気付くようにする。「ズッカというジェラート屋さんはおいしいから、そのおいしさを調べたい」という子供たちからの目線のものや、「福光といえば、棟方志功さんのアトリエや住んでいた家がある」など、保護者や地域住民ならではの意見も出ることだろう。このように第一次では、福光の行きたい「場所」を重点にまち探検を行い、活動を通して、今まで知らなかった福光の「すてき」をたくさん見付け、福光のことを知り、親しみや愛着をもってほしいと考える。

それを受けて第二次では、「ふくみつのよさミッケ！～伝えたい！ぼく・わたしの「推し」～」という単元名を子供たちに伝える。子供たちは、「推し」ということから、第一次で見付けたたくさんのすてきから、とっておきの「すてきな人」を選んでいくだろう。そして、「すてきな人」を選ぶ中で自分が感じる福光のよさとは何かを考えていき、一人一人の価値が少しずつできていくだろう。また、「伝えたい」という言葉からは、自分だけが見付けたすてきをどのように伝えようかと意欲的に考えていくだろう。第二次では、場所の魅力だけでなく、人に目を向けることで、地域のよさは多くの人々の思いや努力によって支えられていることに気付くことができるようにする。また、人との関わりを通して、地域への親しみや愛着をより一層深めるとともに、「福光のすてき」を見付けた自分自身の価値観や思いにも気付くことができるようにしたい。

このように福光のよさ、福光で働いておられる人のすてきさを見付ける活動を通して、子供たちは地域の自然や施設、人々の温かさに気付くとともに、自分自身の変化にも気付くことができる。そして、「福光にはすてきなところがたくさんある」「これからも大切にしたい」という思いをもち、自分たちのふるさとへの愛着や誇りを育むことができる。さらに、地域のために自分ができることを考えることで、主体的に地域と関わろうとする態度につながるのではないかと考える。また、友達との考えの交流を通して、自分の考えを見つめ直すことで、より自分が住んでいる福光への愛着を深め、地域やまわりの人を大切にしようとする思いを高めていきたい。

3　単元の目標

・福光のまち探検やインタビュー等の活動を通して、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、身近な人々と関わることのよさや楽しさがわかる。　［知識及び技能］

・福光のまち探検やインタビュー等の活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。　［思考力・判断力・表現力等］

・福光のまち探検やインタビュー等の活動を通して、地域に親しみや愛着をもち、進んで触れ合い交流しようとする。　［学びに向かう力、人間性等］

4　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一次	①　地域には、様々な場所があり、そこには多様な人々が生活していることが分かる。 ②　相手に応じた挨拶や言葉遣いをしたり、訪問を適切に行ったりしている。 ③　地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所が自分たちの生活を支えていることや、それらが自分と関わっていることが分かっている。 ④　自分の見付けた「たくさんのすてき」について、伝えたことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。	①　地域の場所や人々を思い起こし、地域の様子について友達と交流している。 ②　地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、活動の計画を立て、約束を決めている。 ③　たくさん見付けた「すてき」を友達と伝え合う活動について、伝えたいことを選んで伝えている。	①　地域の場所や人々に関わることへの関心や期待をもちながら、それらを繰り返し関わろうとしている。 ②　地域の場所や人々に応じて、適切に接したり安全にまちを探検したりしようとしている。 ③　地域の場所や人々への親しみや愛着をもって、それらのよさを大切にしようとしている。
第二次	⑤　友達のことや友達が伝えたいと考えていることを理解することのよさや楽しさが分かっている。 ⑥　地域の親しみを感じる人々や愛着のある場所が増えたり、それらの人々や場所が自分たちの生活を楽しくしたりしていることに気付いている。 ⑦　伝え合う活動において、適切な挨拶や言葉遣いをしている。	④　自分の生活と関連付けながら、捉えている。 ⑤　これまでのまち探検等を基に、相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫している。 ⑥　好きになった場所や親しくなった人々等のことを振り返りながら、友達や地域の人々等に知らせている。	④　お店や施設の方に伝えたいという思いをもち、進んでインタビュー活動をしようとしている。 ⑤　相手の反応や状況に合わせて、多様な方法で伝えたいことや気持ちを表そうとしている。 ⑥　地域の人々と関わることのよさや楽しさを実感し、多様な人々との関わりを自ら築こうとしている。

5　研究主題との関連

研究主題	自ら学ぶ子供の育成 ―「書くこと」と「聴くこと」を基盤として―

重点１　根拠をもって考えを書き、振り返る力の育成

（１）学習内容への興味・関心を抱かせるための体験活動

福光地区は、豊かな自然や歴史ある町並みに恵まれ、世界的版画家である棟方志功ゆかりの文化が息づく地域である。また、日本有数の木製バット生産地として知られ、人々が地域の伝統や産業を大切に守りながら暮らしている。普段当たり前のように暮らしている福光の地域には、実はたくさんの「すてき」があることを、まち探検を通して、改めて気付かせたい。例えば、子供たちが保育園時代に発表した「かっぱ祭り」は、かつて福光に住んでいた棟方志功の由来があること、家族でよく食べに行く中華料理屋にも、店を開いた人の思いが、従業員さんにも受け継がれており、そのためにおいしい料理を近くで食べられること等である。改めて自分が住んでいる地域の「すてき」に気付くとともに、地域への親しみや愛着を深めてほしい。単元の最後には、２年後に統合する予定である福光東部小学校と、福光南部小学校の児童に自分たちが見付けた「すてき」を伝える活動を設ける。それにより活動への意欲が高まり、よりよい伝え方についても友達と交流しながら考えていくだろう。

（２）考えの根拠がもてるワークシートの活用

本単元では、まち探検を通して地域の人や場所、施設に目を向け、福光のよさや地域の人々の思いについて考える活動を行う。その際、「見つけたこと」「聞いたこと」「感じたこと」を基に、自分が考えた理由を明らかにしながらまとめたり伝えたりする場を設定する。さらに、友達の気付きや考えを聴き、自分の考えと比べたり関連付けたりすることで、新たな視点に気付けるようにする。

また、活動後には「なぜそう思ったのか」「探検前と比べて考えがどのように変わったのか」を振り返る時間を設ける。地域の人との関わりや探検で得た具体的な事実を根拠として、自分の考えを書いたり見直したりすることを通して、研究主題である「根拠をもって考えを書き、振り返る力」の育成を目指す。

児童が根拠を明確にしながら考えを書くことができるよう、「見たこと」「聞いたこと」「分かったこと」を整理できるワークシートを活用する。また、交流場面では「どうしてそう思ったの？」「どんなことからそう考えたの？」と問い返すことで、事実や体験を根拠として話したり書いたりすることを促す。

重点２　互いの考えを最後まで聴き合える集団づくり

（１）朝の「聴き合いタイム」を通した温かい雰囲気作り

週１回の元気調べ、週３回の聴き合いタイムを通して、自分の思いや考えを素直に出し合い、受け止め合える温かい雰囲気の学級づくりを目指す。友達の考えや取組を聴くことを契機として、子供が自分の考えや取組を見つめ直すためには、自分が周囲から受け入れられていると感じられる、温かい学級の雰囲気が大切である。そこで、子供同士が互いに認め合い、高め合うための土台をつくることを目指し、朝の会を充実させる。

聴き合いの場面では、学年全体が温かい雰囲気の中で、自分が見つけた福光の「すてき」を伝えたり、友達が見つけた「すてき」について、交流する活動を継続することで、多様な考え方に触れながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。また、自分の経験や事実を基に考えを伝える経験を積み重ねることで、見付けた「すてき」さの根拠を明らかにしながら考える力や表現する力を育てる。

（２）「自分と友達との考えの違い」から、たくさんの「すてき」を発見できる交流場面

交流場面では、各々が発見した「すてき」について交流し、「同じところ」や「違うところ」に着目して聴くことができるよう支援することで、共通点だけでなく、差異についても友達の考えを受け止めながら自分の考えを深められるようにし、互いの考えを尊重し合う態度を育てる。これらの活動を通して、自分が発見したこと以外にもたくさんの「すてき」があることに気付き、地域への理解や愛着を深めていきたい。

単元の最後には、２年後に統合する予定の福光東部小学校と福光南部小学校の児童を招き、ぼく・わたしの「推し」発表会をすることとし、初めて会う同学年の児童との交流において自分の考えを伝える活動を通して、自分が思う福光のよさをいろんな人に伝える楽しさを実感させたい。

6　指導と評価の計画

次	時	学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一次	1 〜 20	○単元名を提示する。 ふくみつのよさミッケ！ 〜見つけよう！　ふくみつの「すてき」 ○　まち探検を通して、福光の町の「すてき」をたくさん見付ける学習の見通しをもつ。 ⑴自分たちが「行ってみたい場所」「気になる場所」や、保護者アンケートの中からどこに行くか話し合い、計画を立てる。 ⑵地図を見て、行き方を確認する。 ⑶まち探検に行き、「すてき」をたくさん見付ける。 ⑷交流会を通して、見付けた「すてき」について話し合う。 ※⑴〜⑷を繰り返し、福光のまち探検を通して「すてき」を発見していく。 （1学期は、ジェラート屋「ズッカ」、バットミュージアム、道の駅福光、棟方志功ゆかりの愛染苑・鯉雨画斎、２学期は中華料理屋「青龍」）	①②③④ （行動観察・発言・ワークシート）	①②③ （行動観察・発言・ワークシート）	①②③ （行動観察・発言・ワークシート）
第二次	21 〜 35	○単元名を提示して、単元名を見た思いを聴き合う。 ふくみつのよさミッケ！ 〜伝えたい！　ぼく・わたしの「推し」〜 ○　第２次「伝えたい！ぼく・わたしの推し」の学習の見通しをもつ。 第１次は場所がメインだったが、第２次は、人のすてきを見付け、「推し」ポイントを見付けることを確認する。 ⑴第１次を想起し、「推し」となる人を決める。 ⑵１回目のインタビュー内容を考える。 ⑶１回目の「推し」インタビューに行く。 ⑷インタビューを基に、交流を行い、友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりしながら、考えを整理する。 ⑸２回目のインタビュー内容を考える。 ⑹２回目の「推し」インタビューに行く。 ⑺インタビューを基に、交流を行い、友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりしながら、考えを整理する。 ⑻「推し」発表会に向けて準備をする。 ⑼交流会を通して、友達と考えを伝え合う。 ○「ぼく・わたしの「推し」発表会」 ・２年後に統合する予定の福光東部小、福光南部小の児童に自分の「推し」を紹介し、交流する。	⑤⑥⑦ （行動観察・発言・ワークシート）	④⑤⑥ （行動観察・発言・ワークシート）	④⑤⑥ （行動観察・発言・ワークシート）

7　本時の学習（３２／３５時間）　※　当日配付します

・追究予測

パート１　（２０時間）
「ふくみつのよさ　ミッケ！」
～見つけよう！ふくみつの「すてき」～

① 単元名を聞く

「ふくみつのよさ　ミッケ！」
～見つけよう！ふくみつの「すてき」～

すてきってなんだろう？

いつも食べに行く青龍に行きたいな。

② 初めての町探検（ズッカとバットミュージアム）

・探検先にいた人の話を聞いて分かったことと、すてきなところ探しながら町探検に行く。

なにがあるかな？

どんなすてきがあるかな？

・行ったことがある場所だったけど、色々なことが分かった！

・お店に来る人に対して、すてきな思いをもって仕事をしているんだね。

③ 町探検に行って分かったこと、見つけたすてきについて聴き合う。
（これを町探検の場所を変えて、繰り返す）

A さん　ズッカでは、お店に来るお客さんの笑顔になるような美味しいアイスを作りたいと思って始めたことがすてき
B さん　バットミュージアムでは、お客さんにたくさんにバットを見てもらうためにたくさんあるところがすてき
C さん　青龍で働いている人は、いつも笑顔で、今回の町探検で、自分たちのために時間をとって、厨房を見せてくれたところがすてき

④ 単元（パート１）のまとめ

・これまで行ってきた町探検の中で見つけた「すてき」について発表会をする。

・ズッカはすてきだと思った。わけは、お客さんに喜んでもらうために苦労してたくさんのアイスを作って頑張っているから。

パート２　（１５時間）
「ふくみつのすてきな人　ミッケ！」
～伝えたい！ぼく・わたしの「推し」～

① 単元名を聞く

「ふくみつのよさ　ミッケ！」
～伝えたい！ぼく・わたしの「推し」～

今回は、人について調べていくんだ！

推しってなんだろう？

伝えたいって誰に？

前の「すてき」探しの時に、ズッカのことがすてきだと思ったから、ズッカの店員について調べたいな。

場所 こと → 人

② 各々が選んだ「推し」のすてきについて町探検を繰り返し、インタビューを行い追究していく。

・パート１の時に、見つけた「すてき」を生かし、「人」のすてきについて調べ始める。

A さん　水口さんは、お客さんの笑顔のためにアイス作りを始めたことについて心に残っているよ。水口さんのことについてもっと詳しく知りたいな。

ぼくだけのすてきな人見つけたいな

B さん　パート１の時は、バットや、野球の魅力についてたくさん話してくれたよ。嶋さんについて、他にもすてきなところがないか気になるから、詳しく調べたいな。

福光のすてきってどんなことだろう

C さん　湯浅さんは、僕たちが町探検に行ったときにすごく笑顔で優しかった。だから、どうして、いつも笑顔で働いているのか理由を知りたいな。

１人の決めるのはむずかしいな。どうやって決めよう

③インタビューに行く前に、どんな質問をしたら「推しのすてき」なところを聞き出すことができるか考え、インタビューに行く計画をする。

思いを聞く質問	喜びを聞く質問	努力を聞く質問
A さん「お客さんを笑顔にするために気を付けていることは何ですか」と具体的に聞きたいな。	B さん　野球に対して思いが強い嶋さんに「バットミュージアムで働いていて、嬉しかったことは何か」と聞いてみたいな。	C さん　いつも、たくさんの人が青龍にきて大変そうだけど、「そんな中で、毎日頑張っていることは何か」聞きたいな。

自分の「推し」に対して１回目のインタビューが終わり、考えを整理する。

聴き合い

自分の「推し」に対して２回目のインタビューが終わり考えを整理する。

聴き合い

自分の「推しのすてき」について子供たち同士で交流し合う。（本時）

単元のまとめ
統合する学校に向けて発表

ズッカの水口さんについて追究するＡさん

アイスを食べてもらうことが、水口さんにとって嬉しいことなのか知りたい。

仕事をするときに気を付けていることを聞いてみたら、お客さんが美味しいと思って笑顔になってもらえるように、アイスの味付けや材料等に気を付けながら作っていることが分かった。

友達の意見を聞いて、他の人は、仕事をして嬉しかったことを質問していたから、次のインタビューの時に、嬉しかったことを聞いてみたいな。

水口さんが嬉しかったことは、「自分が手間暇かけて一所懸命作ったアイスをお客さんが食べたときに、美味しいと喜んでくれる姿を見られることが嬉しかった」ということが分かって、お客さんの一人一人の笑顔を大切にしているのかなと思ったよ。

お客さんを大切することで、お店を続けて行ける理由だと言っていたけど、それ以外に理由があるのかな？

友達の意見を聞いて、水口さんと同じようにどの人もお客さんのことを大事に思っているところが似ているな。どうしてみんなお客さんを大事にしたいのだろうか？

これまでのインタビューと友達の意見を聞いて、水口さんの「すてき」なところは、自分の作ったアイスでお客さんを笑顔にしたという想いがあるところだと思った。そして、みんなお客さんを大事にしていることが分かり、その理由は、お客さんの笑顔を見ることで、どんなに大変でも仕事を頑張ることができるからなのかと思ったよ。

町探検を通して、その町にいる人の「すてき」に気付く

お客さんの笑顔を大切にする水口さんのことを知った。福光には、町の人を大切にしている人がたくさんいて嬉しいな。

「お客さん想いのアイスが大好きな水口さん」

最初は、アイスが大好きで、自分の作ったアイスを食べて笑顔になって欲しいという所がすてきだと感じた。そして、インタビューをしていく中で、お客さんとの関わりで嬉しいことがあり、お客さんを大事にしたという思いをもっていることがすてきだと思った。福光のじまんだよ。

福光には、お客さんのことを大切にしている人がたくさんいることに気付き、自分の町を自慢に思うＡさん

バットミュージアム嶋さんについて追究するＢさん

どうして、有名な選手の道具を並べて様々な人に見てもらおうと思ったのか知りたい。

どうして、嶋さんは、野球に対して熱い思いをもって、福光で働いているのかな？

バットミュージアムをやってきて嬉しかったことを聞いてみたら、福光の様々な世代の人が、有名な選手の道具等を見て笑顔になる姿を見ると嬉しかったことだと分かった。

友達の話を聞いて、その人が、どうしてその仕事を始めたのか質問をしている人がいたから、自分も次のインタビューの時に聞いてみよう。

嶋さんに、「どうして、有名選手の野球道具を並べたバットミュージアムを開いたのか？」を聞くと、嶋さんが大好きな野球の魅力を、様々な人に知ってもらい、楽しんで欲しいということが分かって、嶋さんのこの野球に対する熱い思いが、バットミュージアムに来たお客さんに伝わって欲しいと思ったよ。

友達の意見を聞くと、みんなお客さんの笑顔を見たいことや、町のために働きたいこと等の、様々な思いをもっていることが分かった。どうして、嶋さんは、福光で長い間働いているのだろうか？

これまでのインタビューと友達の意見を聞いて、嶋さんの「すてき」なところは、自分の大好きな野球の魅力についてバットを通して知ってもらい笑顔になって欲しいという思いがあることだと分かった。そして、その思いをもって福光で働き続ける理由は、バットの生産が日本で一番という福光の魅力も様々な世代の人に知ってもらいたいのではないのかと思ったよ。

自分が推す対象を通して、自分の考えの変化に気付く

嶋さんのことを調べていく中で、その人の思いも知り、さらには、福光にしかない魅力も知ることができた。こんなすてきな人が住んでいる福光を大切にしていきたい。

「大好きな野球の魅力を伝えて色々な人に笑顔になって欲しい嶋さん」

最初は、バットがたくさんあってすてきだと感じていた。しかし、インタビューを通してバットミュージアムを開いたきっかけや、お客さんの笑顔になる姿が嬉しいことが分かり、バットを通して野球を知ってもらい笑顔になって欲しいという思いがあって「すてき」だと感じた。

嶋さんの思いと、福光にしかない魅力に気付き、自分の町を大切にしていきたいと思うＢさん

青龍湯浅さんについて追究するＣさん

みんなお客さんのことを考えて働いているんだね。どうして、お客さんのことを考えて働くのか知りたいな。

福光で働く人と、福光の町に住んでいる人の関わりの大切に気付いたよ。この関わりを僕たちも大切にしていきたいな。

福光で働いている人のおかげで、福光のことが好きになったから、「いつも福光のことを大切に思ってくれてありがとう」と伝えたい。

町探検や活動を通して、気付いた感謝の思いを伝える

福光の町のことを、こんなにも大切に思ってくれる人がいる町に住んでいることが、僕の自慢できることになった。

毎日頑張っていることを聞いたら、お客さんの笑顔を見るために、何事もお客さんの目線になって考えながら接客したり、料理を提供したりと毎日頑張っていることが分かった。

友達の意見を聞いて、福光で働いている人は、笑顔になってほしいことや、笑顔になる姿を見ることが嬉しいこと等、お客さんのことを考えて働いていることが分かった。どうして、お客さんのことを考えながら仕事をしているのか気になるから聞いてみよう。

湯浅さんに、「どうしてお客さんのことを考えて働いているのか」を聞いてみると、お客さんが笑顔になってくれる姿を見ると、自分もとても嬉しい気持ちになる。そして、笑顔になったお客さんのおかげで青龍を続けることができているから、そんな人がいる福光のために働いていることが分かった。このことから、福光にあるお店は、今まで関わってきた町の人とのつながりのおかげで、たくさんのお店が続いていて、僕たちの生活が楽しくなっているのかなと思

友達の意見を聞いてみると、福光で働いている人たちは、福光のことが好きで、町のことを大切に考えていることに気が付いた。この思いを、僕たちも大切にしていき、日頃の感謝の気持ちを伝えたいな。

青龍は、色々な料理があって美味しいところがすてきだと思っていた。そして、インタビューを通して、湯浅さんは、お客さんの事を考えて働いていて、笑顔になったお客さんのおかげで青龍を続ける事ができているから、僕たちや町の人のことを大切に思っていることがすてきだと気付いた。これをきっかけに、福光のことがより好きになったので、見つけた「すてき」と「ありがとう」の気持ちを伝えたい。

「お客さんのことを考え、福光の人達のために働いている湯浅さん」

湯浅さんは、今の青龍があるのは、青龍に来て笑顔になったお客さんのおかげだと考える。そんなお客さんや町の人のことを考えて、働いていることがすてきだと思った。そのおかげで、自分達も福光で楽しく過ごせている。だから、僕は、その思いから町のために頑張っている湯浅さんに、感謝の気持ちを伝えたい。

福光の町のことを大切に思う湯浅さんの姿に感謝の気持ちをもち、そんな人がいる福光のために自分ができることはないかなと思うＣさん

第６学年　社会科学習指導案

児童数　４０名
指導者　中村　優太
　　田中　　慶

１　単元名　太平洋戦争と絵日記を描いた子供の思い

２　単元について

ある日の社会科の時間のことである。本校の放課後児童クラブの意義についての考えを聴き合う場面で、「子育てと仕事の両立をしやすくするため」、「子供たちが家に帰って１人で寂しいことがないようにするため」など、自分の生活と結び付けて話す子供たちの姿が見られた。また、縄文時代と弥生時代の違いを捉える場面では、縄文土器と弥生土器のレプリカを見て、「こんなゴツゴツのものは使い勝手が悪い」、「茶色の器に米が入っていても、おいしくなさそうだ」、「使用する土器が縄文土器から弥生土器に移ったときに生きていた人は、薄くて軽くて喜んだだろうな」といった発言をする子供たちの姿が見られた。このように、社会科で扱う物事を知るだけでなく、社会的事象に関わる人々のくらしの様子を想像したり、心情を推し量ったりすることを楽しむ子供の姿が日常的に見られる。

学習指導要領では、歴史学習を通して「過去の出来事を基に現在および将来の発展を考えたりするなど、歴史を学ぶ意味を考える」ことが求められている。戦争について、国語科の戦争を題材にした物語文を通して、空襲や原爆等については多少なりとも知っている。また、テレビやインターネット等のメディアを多用する現代の子供たちの中には、空襲や原爆等の写真や映像を見たことがある子供もいると考えられる。そのため、「命を奪う戦争はよくない」といった漠然とした戦争に対する考えをもつ子供も多いだろう。そうした子供たちが、教科書や資料集の文や写真から歴史的事実を知るだけでなく、当時の人々の心情を推察することで、より広い視野から戦争について考え、よりよい未来を築き上げようと歴史から学ぶ姿勢を育むことができると考える。

本単元では、太平洋戦争中の日本の戦局や社会の様子を知り、当時の子供の心情を推し量ることを通して、一人一人が戦争に対する考えを見つめ直し、平和を願う思いが高まる子供の姿に期待したい。第一次の導入では、太平洋戦争前と太平洋戦争後に同じ場所（東京都）で撮影された航空写真を提示する。二枚の写真を比較し、建物が焼かれた様子を見た子供たちは、日本の被害の状況に目を向けるだろう。資料集から日本の戦況を読み取ることができる年表を見付けた子供たちが、日本が他国に損害を与えてきたことや、空襲や沖縄戦、原爆等により、日本の戦局が悪化して降伏したこと等に気付くと考える。日本が戦勝国となり、土地や資源を拡大して国際的地位を高めた要因となった日清・日露の戦争と比較して年表を見る子供たちは、「今までの戦争（日清・日露の戦争）で勝利してきた日本が、太平洋戦争ではどのようにして敗れたのだろうか？」という学習問題を立てるだろう。そして、当時の日本の戦局とともに、社会の様子の変化を調べていく。教科書と資料集を用い、戦局の悪化とともに社会の様子が変化したことを知った子供たちに、第二次の導入では、当時の子供が実際に描いた絵日記を提示する。絵日記を見た子供たちは、第一次で客観的に見ていた太平洋戦争を、当時の子供の立場から捉え直すだろう。子供たちは、第一次で調べてきた日本の戦局や社会の様子の変化を根拠にして、絵日記を描いた自分と同年代の子供の思いを推察し、家族と離れ離れの生活が始まる子供の目に浮かぶ涙や、戦局が悪化するにしたがって徐々に体重が減っていくことへの不安等、心理的な被害を捉えるだろう。また、今の社会の様子や自分たちの生活と比べて、当時の社会の様子や人々の様子を見つめようとする子供たちは、「戦争が起こると、国のために我慢を強いられる」、「戦争は、人の命をないがしろにする世の中にしてしまう」というように、戦争に対する考えを言語化することができるだろう。

このように、第一次で当時の歴史的事実を調べ、第二次では第一次で調べた歴史的事実と絵日記を描いた子供の思いに向き合うことで、単元の初めは「戦争は人の命や生活を奪うものである」という見方をしていた子供たちが、「戦争は人の命を奪うだけでなく、人の命を大切にしようとする心や、戦争がある世の中がこわいと言える雰囲気等、実際には目に見えないものを失う」と考えるなど、戦争に対する考えを深める姿に期待する。歴史的事実を基に、絵日記を描いた子供のくらしの様子や心情を推し量ったり、絵日記から感じたことを聴き合ったりする中で、子供一人一人の戦争に対する考えが深まり、戦争があった時代の歴史から学んだことを生かして、よりよい未来を築き上げようとする子供の姿に期待する。

3　単元の目標

・歴史上の事象について地図や年表等の資料を用いて調べ、我が国と中国、連合国との戦いが全面化し、アジアや太平洋地域への多大な損害を与えたこと、戦時体制に移行したこと、各地の空襲や広島・長崎の原爆投下等により大きな被害を受けたこと等を理解することができる。（知識及び技能）

・日中戦争や第二次世界大戦について問いを見いだし、戦争の全面化、日本の多大な損害、戦時体制への移行、大きな被害等の調べたことを関連付けたり総合したりして、戦争が国民のくらしに及ぼした影響を考え、表現することができる。（思考力、判断力、表現力）

・我が国による戦争の広がりや戦争による人々のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。

・歴史から学んだことを生かし、よりよい未来に向けて平和を願う心情をもつ。（学びに向かう力、人間性等）

4　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①　世の中の様子、代表的な文化遺産等について、地図や年表等の資料で調べ、日中戦争や太平洋戦争等を理解している。 ②　調べたことを整理してまとめ、我が国と中国、連合国との戦いが全面化し、アジアや太平洋地域への多大な損害を与えたこと、戦時体制に移行したこと、各地の空襲や広島・長崎の原爆投下等により大きな被害を受けたこと等を理解している。	①　戦争の広がりや戦争による人々のくらしの変化に着目して、問いを見いだし、日中戦争や太平洋戦争等について考え、適切に表現している。 ②　日中戦争や太平洋戦争等を関連付けたり総合したりして、戦争の長期化や戦線の拡大に伴う国民生活への影響を考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	①　我が国による戦争の広がりや戦争による人々のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

5　研究主題との関連

研究主題

自ら学ぶ子供の育成
―「書くこと」と「聴くこと」を基盤として―

重点１　根拠をもって考えを書き、振り返る力の育成

本学年は学習に前向きに取り組み、友達との関わりを大切にしようとする子供が多い。しかし、友達に依存し、自分の考えをもたないまま友達の考えを自分の考えとしてまとめようとする子供もいる。題材選定を工夫して学習内容への興味・関心や学習活動への主体性を高め、思いや考えを書く意欲を高めたい。また、振り返りの時間を確保し、自分自身とじっくりと向き合い、自分の考えを整理したり、考えや取組を見つめ直したりして、自己調整しようとする子供の姿に期待する。

(1)　主体性を高める題材の選定

子供にとって身近に感じる題材を選定することは、思いや考えを書く意欲を高めることにつながると考える。本単元では、戦争中に空襲から逃れるため、校区内に学童疎開していた子供たちが実際に描いた絵日記を題材として用いる。歴史学習では、社会の様子が現在とあまりにも違うため、「昔の話だ」、「自分の生活とは関係ない」と感じ、授業で扱う歴史的事実を遠い出来事として捉える子供もいる。太平洋戦争を扱う本単元でも、社会科で扱う長い歴史の中で時間軸は現在と近くても、多くの人の命が亡くなる悲惨さから、遠い出来事として歴史的事実を捉える子供もいることが予想される。そこで、地理的に身近な福光地域に疎開した子供の絵日記を用いることで、太平洋戦争中の社会の様子や人々の心情を推し量ろうと意欲的に追究できるようにする。

⑵　根拠をもって考えを書くための題材の精選

教科書や資料集に書かれている歴史的事実を根拠にして、当時の子供のくらしの様子や心情を語ることができるよう、教科書や資料集に類似する状況が載っている絵日記を精選して子供に提示する。

一人の子供が描いた絵日記ではなく、複数の子供が描いた絵日記を用いることで、当時の子供のくらしの様子や思い、その根拠となる歴史的事実を比較・関連付けたり、総合したりして、その子供なりの見方・考え方から戦争に対する考えを深めることができるようにする。

⑶　自分の学びや取組を客観視して次の取組に生かすために振り返る場面の設定

日常的に、授業場面で振り返りをノートに書く場面を継続的に設定したり、一日を振り返る日記を毎日の宿題に出したりしている。本単元でも、自分の取組を振り返る際に、「なぜそのように考えたのか」、「どのようなことがきっかけでそのように考えるようになったのか」といった自分の考えの理由や根拠に気付くことができるよう、自分の取組や考えを見つめる場面を設定する。自分の取組を振り返る場面を設定することは、考えの変容やそのきっかけや自分に合った学び方に気付くことにもつながると考える。

重点２　互いの考えを最後まで聴き合える集団づくり

友達の取組や考えを聴くことを契機に、自分の考えや取組を見つめ直す機会として、単元の途中で聴き合いを行う場面を設定する。自立した学習者同士が自分の考えをもち、互いに高め合える子供たちの姿を期待する。

⑴　朝の会を用いた学級づくりの場面とのつながり

友達の考えや取組を聴くことを契機とし、友達の考えから今までになかった視点を学んだり、友達に自分の考えを伝えたりすることを通して、子供一人一人が自分の戦争に対する考えを深める場面が単元の節となる。友達と聴き合うことを通して自分の考えを深めようとする姿勢を見ることができるようにするためには、自分を受け入れてくれているという学級の雰囲気が大切であると考える。週一回の元気調べと、週三回の朝の聴き合いを通して温かい集団をつくり、子供が自己開示できる安心感をつくる。

⑵　友達の考えを契機として自己調整する場面の設定

友達の考えや取組を聴くことを契機として、自分の考えや取組を見つめ直すことができるよう、聴き合いの場面を適宜設定する。子供が自分の考えに迷いが生じており、友達の取組や考えを聴くと次の学びにつながりそうな場面、多くの子供が考えをもって満足している中で、ある子供の考えを聴くと次の学びが始まりそうな場面等、目的を明確にして子供同士が考えを聴き合う場面を設ける。

6　指導と評価の計画（全 12 時間）

次	時	学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一次　戦争の広がりと社会の様子を調べる	1 〜 6	【既習の学習内容】 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、不平等条約の改正、科学の発展等により、国際的地位が向上した。日清・日露の戦争では、軍事力により領土や資源を獲得し、欧米諸国に認められた。 ○　歴史的背景（日本の戦局や社会の様子の変化）を調べる。 ・戦前と戦後に東京の同じ場所で撮られた写真や年表を見て、今までは戦勝国だった日本だったが、太平洋戦争では敗れ、大きな被害を受けたことに気付くことで、学習問題①を立てる。 学習課題①　今までの戦争で勝利してきた日本が、太平洋戦争ではどのようにして敗れたのだろうか？ ・中国との戦いが全面化して日本がアジア諸国に多大な損害を与えたこと、日本国内が戦時体制に移行したこと、資源確保のために東南アジアに軍隊を進めたこと等、太平洋戦争に至るまでの経緯を調べる。 ・戦争が長く続くにつれて戦時体制を強めていったことの、社会の様子への影響を調べる。 ・日本各地への空襲や沖縄戦や原爆投下等、日本が降伏に至るまでの経緯を調べる。	①（ノート・発言） ②（ノート・発言）	①（ノート・発言）	①（ノート・発言）
第二次　絵日記を描いた子供の思いを推し量り、自分の戦争に対する考えを深める	7 〜 12	○　戦争中の子供の絵日記に出合う。 ・一部の絵日記を見て感じたことや問いを聴き合うことで、学習問題②が生じる。 学習課題②　太平洋戦争中に子供が描いた絵日記を基に、自分の戦争に対する考えをまとめよう。 ・学習の見通しをもつ。 ○　一人学び ・第一次で調べた歴史的事実と関連付け、絵日記を描いた子供のくらしの様子や心情を読み取る。 ・歴史的事実と絵日記を描いた子供のくらしの様子や心情から、戦争に対する考えをまとめる。 ○　聴き合い ・一人学びを行っている今の気持ちや、戦争に対する考えや取組を聴き合い、友達の戦争に対する考えや取組を学ぶ。 ・自分の戦争に対する考えや取組を見つめ直す。 ○　単元の振り返り ・一人学びを行った今の気持ちや、戦争に対する考えや取組を聴き合い、友達の戦争に対する考えや取組を学ぶ。 ・自分の戦争に対する考えや取組を見つめ直す。	②（ノート・発言）	②（ノート・発言）	①（ノート・発言）

7　本時の学習（１１／１２時間）　※　当日配付します

追究予測　第６学年　社会科「太平洋戦争と絵日記を描いた子供の思い」 No. 1　全６時間

子供の育ち

縄文土器と弥生土器を見て、「こんなゴツゴツした食器は使い勝手が悪そうだ」、「縄文土器から弥生土器に移ったときに生きていた人は、薄くて軽くて喜んだだろうな」と発言するなど、歴史的事象に関わる人のくらしの様子や心情を推し量ろうとする子供たちである。また、初めて見たり聞いたりしたことに子供たちが興味・関心をもち、感じたことや疑問に思ったこと等の多様な思いや考えを聴き合うことで、考えを見つめ直す様子も多々見られる。

願う子供の姿

・歴史的事実（教科書・資料集）を基に絵日記を描いた子供のくらしの様子や心情を推し量る子供。
・じっくりと考え、考えたことを聴き合う中で、戦争に対する考えを深める子供。
→戦争があった時代の歴史から学んだことを生かし、よりよい未来を築き上げようとする子供。

単元の目標

・歴史上の事象について地図や年表等の資料を用いて調べ、我が国と中国、連合国との戦いが全面化し、アジアや太平洋地域への多大な損害を与えたこと、戦時体制に移行したこと、各地の空襲や広島・長崎の原爆投下等により大きな被害を受けたこと等を理解することができる。
・日中戦争や第二次世界大戦について問いを見いだし、戦争の全面化、日本の多大な損害、戦時体制への移行、大きな被害等の調べたことを関連付けたり総合したりして、戦争が国民のくらしに及ぼした影響を考え、表現することができる。
・我が国による戦争の広がりや戦争による人々のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。
・歴史から学んだことを生かし、よりよい未来に向けて平和を願う心情をもつ。

絵日記の教材性

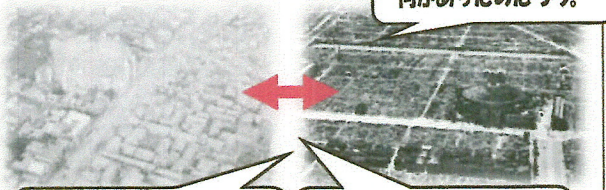
教材として用いる絵日記は、戦時中に同じような年齢の子供たちが、空襲からの被害を逃れるために、東京から校区内（福光地域）に疎開したときのくらしや思いを綴った日記である。戦争の長期化による被害の拡大に伴うくらしの変化や、当時の子供の思いを推察することができる、価値ある一次資料である。絵日記を通して、歴史的事実だけでなく、当時の人々のくらしや思いを推察することで、人の命や建物を失うという目に見える被害だけでなく、心の中の目に見えない被害に気付くことにつながると考える。

第一次　戦争の広がりと社会の様子を調べる

学習問題をつくる・学習の見通しをもつ

東京の戦前と戦後の２枚を提示する。

戦前と戦後の東京の写真を比べ始める子供



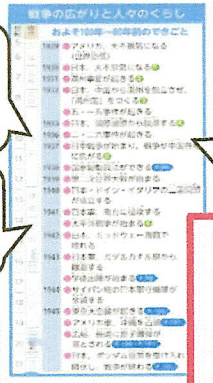
建物がなくなったよ。何があったのだろう。

戦争があったんだよ。きっと、爆弾で建物が破壊されたんだろうね。

たくさんの人が亡くなったんだろうな。

日本は戦争で負けたのだよね？

年表を見る子供



日本がどんどんと負けに近付いていったのがよくわかるな。

日清戦争・日露戦争では戦勝国として土地や資源を獲得したのに…

最後に「降伏」って書いてあるよ。

「降伏」は「相手に負けを認める」ことを言うんだ。

学習問題①
今まで戦争で勝利してきた日本が、太平洋戦争ではどのようにして敗れたのだろうか？

調べる

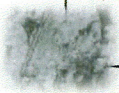
戦争の広がり

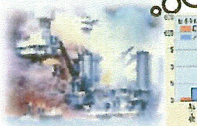
不景気に苦しむ人々が増える中、政治家が、中国に勢力をのばすことで景気が回復するという考えが広めた。



政治家の言うことを信じるしかない国民だったのだろうな。

日本軍が中国軍を攻撃して、満州事変→日中戦争へと、戦場が広がった。



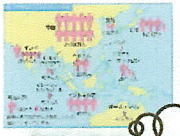




自分たちの生活が大切な国民は、政府のことを信じ、領土を広げる日本に喜んでいたと思うよ。

政府は、国民に「正しい戦争である」と信じ込ませ、戦時体制を強めていった。

資源を獲得したい日本は、多くの損害を与えて、東南アジア各地を日本の領土にした。



日本に占領された土地の人々は、教育、住む場所、労力を日本に強制されているような気がするよ。「戦争に敗れる」とは、こういうことなのかな。

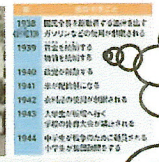
太平洋戦争と社会の様子

戦争が太平洋各地に広がり、アメリカやイギリスの領土に及び、太平洋戦争が始まった。



日本が宣戦布告したのだけれど、力の差が大きいアメリカに勝てると思っていたのかな。





戦争によって、生活も心も統制されていったのだな。心まで統制される社会がこわいな。



大人だけではなく、子供も戦争に協力しなければならない社会だったのだな。

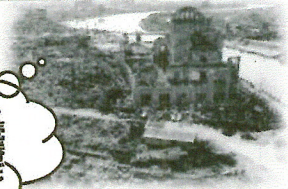


戦争が激しくなると戦場に送られる社会に生きるなんて、こわいな。

戦争の被害の拡大と降伏

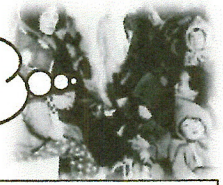
空襲、沖縄戦、原爆により、戦争の被害が拡大していったが、政府は戦争をやめる決断をできずにいた。





ここまで戦争が広がっていたのに、戦争を続けた政府は、本当に勝てると思っていたのだろうか。

度重なる空襲で、自分の命を守ろうと防空壕に入っていた人は、本当に戦争を続けたかったのだろうか。



戦争の被害が拡大した日本はついに降伏し、満州事変から続いていた戦争が終わった。

ようやく戦争が終わったんだね。被害が拡大する前に戦争が終わってほしかったな。



追究予測　第６学年　社会科「太平洋戦争と絵日記を描いた子供の思い」 No. 2　　全６時間

第二次　絵日記を描いた子供の思いを推し量り、自分の戦争に対する考えを深める

学習問題をつくる・学習の見通しをもつ　→　歴史的事実と絵日記を基に、自分の戦争に対する考えを明らかにしていく　→　自分の取組みや考えを見つめ直す

福光地域に疎開しにきた当時の小学生が描いた絵日記を提示する。

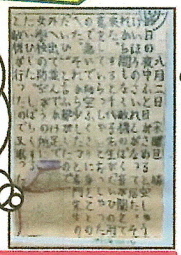
福光地域に疎開しにきた人もいるなんて、びっくりしたよ。僕たちが住んでいる、身近な福光地域の戦争との関わりを目の当たりにして、戦争の身近さを感じたよ。



食べ物が少なくなって、実際に体重が減ったのだな。僕たちのような成長する年齢でなかなか体重は減らないのを見て死の恐怖を感じただろうな。

戦争は人の命や今までの生活を奪ってしまうこわさがある。

富山大空襲の日だな。次々と敵機がやってきて、自分や友達の命が失われるかもしれないなんてこわいから、とても急いで逃げたのだろうな。



学習問題②
太平洋戦争中に子供が描いた絵日記を基に、自分の戦争に対する考えをまとめよう。

絵日記に出合って命の危険と隣り合わせであるこわさを改めて感じたよ。戦争が人に及ぼすこわさを調べたり考えたりしたいな。

防空壕を作った日に先生から「ここを墓場だと思っていなさい」と言われたり、戦争に行く先生に向かって「ばんざい」という様子がこわいよ。戦争のせいで、人の命を大切にしなければならないという大切な価値観を忘れているような気がするよ。

絵日記からは、富山大空襲による被害や、召集令状が届いた人を戦場へ送る時等、死と隣り合わせに生きている様子が分かるよ。自分も命を失うかもしれないこわさが感じられるよ。

人の価値観に影響を及ぼす「戦争のこわさ」を考える子供

僕たちは戦争のない社会で生きているため、命の危険と隣り合わせにいる当時の子供の思いとは全く違うよ。社会の様子と絵日記を関連付けて戦争を考えていきたいな。

人の命をないがしろにして、身近な人や近くに住んでいる人が戦争に行くときに「ばんざい」と叫ぶところがこわいな。命が軽んじられる社会に生きることも「つらい」に含まれているのかもしれないな。

成長する僕たちの年齢の子供が体重が減っていく姿を見た先生が「普通」と言ってしまう社会が今と違うな。食料が減って「つらい」という気持ちは、腹が減ってつらいのではなく、食料のない社会で生きることがつらいのだろうな。

今の社会と比べて戦争中の社会の雰囲気を捉える子供

教科書や資料集とは違い、絵日記は人の思いの変化を追うことができると思うよ。絵日記を時系列で見ていきたいな。

疎開の初日に、友達と生活できることが楽しくて寝られない様子を見ると、宿泊学習での私たちの気持ちと似ているな。戦争があった当時も私たちと同じ小学生だったのだな。

二回目の疎開を見ると、家族と離れ離れになることに苦しさや悲しさを感じているように見えるよ。きっと、一回目の疎開で、戦局が悪化して食料が減っていく不安の中で生活しなければならない経験を味わったのだろうな。戦争中とは言え、私たちと同じような心の子供たちだったのだろうな。

時系列で絵日記を追う中で当時の子供に共感できることに気付く子供

（聴き合い）

絵日記に出合う前は、今まで送っていたくらしや命が失われる戦争のこわさを感じていたよ。しかし、絵日記の子供の思いを考える中で、戦争によって、人の命を大切にしなければならないという、私たちが大切にしている価値観が失われてしまうことがこわいと思うようになったよ。

僕も、戦争中の人のこう考える価値観がこわいと友達に共感するよ。僕は、戦争があった当時の社会の雰囲気にえよ。優先し軽んじてきた生子供たちから、軽んじていただをしたな。

当時の子供たちは、一こくも早く戦争を終わらせようと、別れ悲しさもたくさんあったのだろうな。

戦争は人の命や生活を奪うだけでなく、人の命を大切にする心を奪うこわさがある。

友達の話を聴いて、戦争のある社会の雰囲気が、人の価値観に影響を及ぼすこわさについて考えたいと思ったよ。

「ぜいたくはできないはずだ」という看板は、体重が減った子供に先生が言った「普通」という言葉につながっていると思うよ。成長を我慢しなければならない雰囲気だな。

齋藤さんの絵日記には本音を葉書に書いて叱られ、「つらい」と書いてあったよ。戦時体制は人の体だけでなく人の心も戦争に向かわせたのだな。人の体も人の心も戦争に協力させようとする価値観を強制される社会の雰囲気のつらさが込められているのだろうな。

社会の雰囲気のこわさに考えを広げる子供

今までは社会全体の雰囲気から戦争を見ていたけれど、友達の話を聴いて、戦争に向かっていった人の価値観から絵日記を見たいと思ったよ。

戦争のない社会に生きる私たちには、戦争のために体重が減ったり運動会がなくなるという価値観はないよ。そんな社会には生きたくないな。

当時のように戦闘機や軍艦に乗って他国を攻撃する戦争とは少し違っても、兵器を使って国同士で攻撃して命を落とす戦争をニュースで見るよ。今も戦争をしている国があるということだよ。僕は、この先も人の命を大切にする心を忘れず、平和な社会を守っていきたいよ。

今も戦争が起こらないとは限らないと危機感をもつ子供

友達の話を聴いて、戦争が続くにつれて当時の子供と今の自分の価値観に違いが出てくると予想したよ。

終戦の日の絵日記に体重が減った様子を絵にしていることから、いくら「お国のため」とは言え、やっぱり自分の命が大切なのだな。

友達は、今の私たちがもっている価値観と当時の子供の価値観は違うと言っていたよ。しかし、当時の子供の価値観を日記から想像すると、戦争がつらいと書いた絵日記や、戦争で死ぬことが普通という先生の言葉を「変だ」と感じている子供の様子から、必ずしも子供たちの価値観が私たちと違うとは思えないよ。当時の子供にも命を大切にしたいという思いはあったのだと思うよ。

人の価値観が戦争に染まらないと考える子供

（聴き合い）

戦争は、一人一人の価値観を変えてしまうと思っていたよ。しかし、友達の考えを聴いて調べていく中で、戦争が国全体の雰囲気を変えてしまい、国の雰囲気が子供の価値観を変えてしまうと考えたよ。国の雰囲気を悪くする戦争は二度と起こしてはならないよ。

今も世界には戦争をしている国があるよ。戦争のない社会で当時の人の思いを冷静に見れている僕たちも、万一、戦争が起こると、人の命を大切にする心を失うかもしれないよ。そんな社会は絶対によくないから、この先も平和でいなければならないんだ。

戦争中の子供たちも私たちと同じような価値観も持ち合わせていたはずだよ。私たちは、この先もずっと、人の命は大切である、戦争は二度とあってはならないという、今の社会で大切にしている価値観を受け継いでいくことが大切だと思うよ。

今の社会で自分たちが大切にしている心をもち続け、戦争のない社会を守り続けたい。

友達の考えを聴いて、確かに今も戦争をしている国があり、世界から戦争がなくなったわけではないことに気付いたよ。人の命を大切にする次世代に受け継ぎ、平和を守っていきたいな。

友達の考えを聴いて、社会人としての雰囲気と分けてものごとを考えないといけないとは思ったよ。周りに流されず、平和を守りたいという思いも含めて、自分が大切だと思っていることを大切にし続ける強い心をもちたいな。

戦争がある社会は、「お国のために」本当の気持ちをと言わせる息苦しい社会だと感じたよ。本音を言い合える、平和で生きやすい社会が続くといいな。

具体的目標	内容の側面	教科書・資料集から収集・整理した情報を関連付け、戦争が子供のくらしに及ぼした影響を考える。	単元を通して調べたことや考えたことを振り返り、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さを自覚する。
	生き方の側面	自分の思いや願いをもち、戦争に対する考えと、それに関する自分の問いをもち、粘り強く調べたり考えたりする。	最後まで自分の問いをもって粘り強く調べたり考えたりする。
授業者の手立て（研究主題との関連）	自ら学ぶための「書くこと」	絵日記を描いた当時の子供の思いを位置付け、戦争に対する自分の考えをもったり、調べたいことを見付けたりする。	考えを書きためるワークシートを準備し、考えを振り返る機会を設定することで、考えの変容とその契機に気付く。
	自ら学ぶための「聴くこと」	友達の考えに触れることで、自分の考えを見つめ直し、戦争に対する考えを深めるために効果的な場面で聴き合いを設定する。	自分の取組や考えを見つめ直し、今後の学習や実生活に生かそうとする。

V　講演メモ

講　師　　早稲田大学　教育・総合科学学術院
　　教育学部教育学科　大学院教育学研究科　　教授　藤井　千春　先生

会場案内図（福光中部小学校）

